

## 第 35 回 私の思い出と当時の世相について

### — 後編 —

(2025 年 8 月 18 日)

今回は「私の思い出と当時の世相について—後編—」と題して、前回の続きをお話ししたいと思います。前回は「大相撲蔵前国技館への社会見学」と「城ヶ島とポール・アンカと三種の神器」についてお話しいたしました。今回は「私の東京オリンピックと東京の街の変貌について」をお話しいたします。



#### 私の東京オリンピックと東京の街の変貌について

東京オリンピックと言っても、この間の東京オリンピック 2020 (2021 年) ではなく、1964 年 (昭和 39 年) 10 月 10 日に東京で開催された、第 18 回夏季オリンピックのことです。私は大学生でした。私のクラスメートの中には代々木の選手村の食堂でアルバイトをした友人がいましたが、私はクレー射撃のチケット購入のアルバイトを一度だけいたしました。決められた日時に明治神宮球場のチケット売り場に行って、指定されたチケットを購入するアルバイトでした。折角だから私の分のチケットも購入し、埼玉県所沢市の所沢射撃場に行き、観戦いたしました。クレー射撃のルールは、クレーの放出方向は完全にランダムで、1つのクレーに対して 1 発の射撃しか認められないというものです。なかなか面白かったです。オリンピックの記念切手の裏にサインをしてもらいました。確かヨーロッパから来た選手だったと思います。このサイン入りの記念切手は今でも自宅の机の中にあります。競技場に行って観戦したのは、このクレー射撃だけです。私のオリンピックの思い出の一つです。

オリンピックで印象に残った競技が三つあります。一つ目は駒沢オリンピック体育館で開かれた女子バレーボルの決勝で、「鬼の大松」と言われた大松監督率いる日本チーム (日紡貝塚チームが中心) が見事に旧ソ連を 3-0 で破り優勝

したことです。「東洋の魔女」と言われた日本チームの優勝に日本中が沸いた瞬間です。テレビの最高視聴率は 66.8%で、過去最高を記録しました。主将は河西選手で、宮本選手、半田選手等の名前も今でも忘れずに出てきます。日本チームの「回転レシーブ」も有名になりました。二つ目は男子マラソンです。国立競技場を出て、甲州街道を調布市の飛田給まで行き、折り返すコースです。優勝はエチオピアのアベベ選手で、圧倒的な強さでローマに続き連覇いたしました。日本の円谷選手が健闘し、国立競技場に 2 位で入ってきましたが、競技場内で 3 位のイギリスのヒートリー選手に抜かれ、3 位となりましたが、堂々の銅メダルでした。東京オリンピックの陸上競技でメダルを獲得したのは円谷選手だけです。表彰式の時に国立競技場のポールに日の丸が掲げられました。日本の期待に応え、よく頑張ったと思います。三つ目は東京オリンピックの柔道の会場となった日本武道館で、柔道の無差別級（現在はありません）の決勝で、オランダのアントン・ヘーシンク選手が日本の神永選手を得意の寝技に持ち込んで抑え込み、袈裟固め一本で、神永選手を破り、優勝しました。この時、オランダの関係者が喜んで、マットに入ろうとして飛び出した瞬間に、ヘーシンク選手は袈裟固めをしたまま、右手を上げ、関係者に向かって「入って来るな」と、ストップの合図をいたしました。柔道は「礼に始まり礼に終わる」というのが精神ですから、ヘーシンク選手は外国人でありながら、柔道とは「単なるスポーツではない」ということを身に付けていたわけです。感動いたしました。

一方、東京の街はオリンピックを境に変貌をとげました。オリンピックの開会式の 10 日前の 10 月 1 日に東海道新幹線の東京―新大阪間が開業いたしました。世界初の高速鉄道で、東京―新大阪間を約 4 時間で走行いたしました。10 月 1 日にぴったりに開業したのは見事です。日本の技術の優秀さを証明いたしましたね。また、都内の道路が自動車時代の到来で、渋滞が問題となり渋滞緩和策の一環で、都内の中心部に首都高速という自動車専用道路が出来ました。私は、この首都高の一部には反対でした。それは東京の景観が損なわれるからです。パリの街を見れば一目瞭然ですよ。あの「お江戸日本橋」と言われた日本橋の上に首都高をかけたことには驚きの言葉以外ありませんでした。こういうことを考える「馬鹿もの」（私個人の考えです）がいるんだなと思いました。経済優先の考えですね。幸い、現在地下トンネルを通すための工事を進行中で、2040 年（令和 22 年）には日本橋の上の首都高は撤去される予定になっています。「お江戸日本橋」の復活です。日本橋川の水と緑をうまく活用し、新しい日本橋界隈の誕生で、東京の新名所となり、都民、又インバウンドの旅行者にとって安らぎの場所となるよう期待しております。

新宿もオリンピック前後から急速に変わっていきました。新宿駅西口の高層ビル街には、明治時代に建てられた「淀橋浄水場」が、私の高校時代（昭和34年から昭和36年）にはありましたが、オリンピックの翌年の1965年（昭和40年3月）に廃止されました。新宿副都心計画として、その跡地に京王プラザホテルが1971年（昭和47年）に高層ビル第1号として建設されました。その後、住友ビル、三井ビルなど、次々に高層ビルが建設されていきました。丸の内から移転してきた東京都庁舎が1990年（平成2年）12月に完成し、翌1991年4月に業務を開始いたしました。設計は丹下健三氏です。丸の内の跡地には、東京国際フォーラムが建設されました。こうして、新宿副都心が完成していき、新宿は大変貌をとげ始めました。京王線新宿駅も私が高校生の頃は地上にホームと駅舎がありました。駅構内から甲州街道を見た記憶があります。オリンピックの1年前の1963年（昭和38年）4月に地下化し、その後地上には京王デパートが誕生しました。新宿駅東口の旧三越と伊勢丹のある通りには、紀伊國屋書店がありますが、私の高校時代には大通りから少し引っ込んだところがありました。距離は正確には分かりませんが、15メートルぐらいはあったのではないのでしょうか。両側には小さな店が並び、突き当りにあった2階建の木造の建物が紀伊國屋書店でした。高校時代によく行った場所の一つです。皆さんの中に、2階建の紀伊國屋書店をご存知の方は殆どいないのではないのでしょうか。現在のビルはオリンピック前年の1963年（昭和38年）3月に完成しております。伊勢丹デパートの現在の駐車場は、私の子供時代にはローラースケート場がありました。このローラースケート場のことをご存知の方は全くいないのではないのでしょうか。「昭和の戦後は 遠くなりにはけり」です。新宿駅南口も高島屋やバスタ（バスターミナル）、小田急ホテルセンチュリーサザンタワーなどのホテルも出来、新宿駅南口周辺も変わりました。こうして新宿駅周辺はオリンピックを境に、日本の高度経済成長時代と共に大変貌を遂げたわけです。

そして、私にとって馴染みの深い青山通りもオリンピックを境に変貌していきました。私の大学生時代（昭和30年代後半から40年代の初め）には青山通りには都電が走っていました。今の「ヒカリエ」のところには「東急文化会館」がありました。当時、東急文化会館は渋谷のランドマークでした。一階には東急パンテオンという映画館、あと2軒ほど映画館が入っていたと思います。東急ゴールデンホールという結婚式場・宴会場もありました。高級美容院や理髪店もあったと記憶しております。大きな書店もあり、最上階には五島プラネタリウムがあり、人気がありました。一階の映画館の右側に、ドイツ菓子の名店「ユーハイム」がドイツ菓子の販売と喫茶店を兼ねた店をだしていました。「ユーハイム」は待ち合わせの場所としても有名で、多くの人に使われていたようです。

私もコーヒーを飲みながら、店名物の「バウムクーヘン」を食べたことがあります。当時の私にとっては、「ユーハイム」を利用することは一人前の大人になったという気分でした。また、「ユーハイム、バウムクーヘン」という言葉には「異国情緒」の響きがあり、ドイツ文化の一部に触れた、良い思い出になっております。まさに文化会館でした。「東急文化会館」（2003年閉業）の反対側には東横線の渋谷駅（現在は地下に移転いたしました）があり、この間に都電の渋谷駅がありました。青山方面行きと目黒方面行きの都電の発着駅でした。私は渋谷から歩いて10分くらいの、青山通りに面した大学に通っていらしたので、雨の日や急いでいる時は都電によく乗りました。最初の駅が「青山車庫前」で、ここに都電の車庫があったわけです。青山通りと骨董通りの交差点の角にはガソリンスタンドがありました。外国人客と富裕層向けの高級スーパーマーケットの「紀ノ国屋」は、このガソリンスタンドの向かい側の青山通りに面した2階建の店であったと思います。高級スーパーとはどういうものかと、一度入ったことがあります。一般の店では手に入らない外国製品がずらりと並んでいたと記憶しております。ここで何か買い物をしたことも覚えております。東京オリンピックを境に青山通りの車道は拡幅され、同時に歩道も広くなり、現在の青山通りの「土台」が出来上がったわけです。しかし、まだ昔の青山通りの面影も多く残してありました。

都電の車庫は、都電がオリンピックの4年後の1968年（昭和43年）に廃止された後は都バスの車庫となり、その後、1985年（昭和60年）に「子供の城」が開館（現在は閉館中で、今後再開発を検討中のようです）いたしました。1階には「青山劇場」という劇場があり、「ラマンチャの男」と「李香蘭」のミュージカルを観たことがあります。青山車庫の隣には4階建の都営アパートがあり、1・2階には郵便局、食堂、喫茶店、会社などが入居してありました。この喫茶店で食べた「ナポリタン」は美味しかった記憶があります。当時の庶民にとっては、スパゲッティと言え、ば、「ナポリタン」でした。最近、また「ナポリタン」の人气が復活したようですね。その後、この都営アパートがなくなり、国連大学が招致され、国連大学本部ビルは1992年（平成4年）に完成されました。国連大学のビルは空に向かってそびえ立っています。設計は丹下健三氏です。「紀ノ国屋」の建物は、その後2008年（平成20年）にモダンなビルに代わり、「紀ノ国屋」は、このビルの地下1階に店を構えて営業しております。青山通りと骨董通りの角にあった、ある意味で目立っていたガソリンスタンドはいつの間になくなり、現在では、イタリアの女性ファッションブランドのMax Maraがビルの1・2階に高級感を感じさせる店構えの青山店をだしております。

表参道も変わりました。青山通りと明治通りの中間にあった、趣のある古い同潤会青山アパートがなくなり、ここに「表参道ヒルズ」が2006年（平成18年）2月開業いたしました。同潤会アパートは、関東大震災後、大正末期から昭和初期にかけて東京・横浜の各地に建設された鉄筋コンクリート造の集合住宅で、住宅の歴史から見ても貴重な存在の建物でした。従って、同潤会青山アパートは表参道の名所のような存在の建物でした。古い由緒あるアパートがなくなったのは残念なことです。ただ、ケヤキ並木は昔と変わらずに、新緑の季節、紅葉の季節、年末のイルミネーションで表参道を飾ってくれております。青山通りを明治神宮外苑まで行って、左に曲がると、すぐ右側に東京ボウリングセンターがありました。創業は昭和27年（1952年）で、日本で初めての民間のボウリング場です。私の大学時代はボウリングの全盛時代で、大学の授業が終わってクラスメートとよく東京ボウリングセンターに行き、ボウリングを楽しんだ思い出があります。プロの中山律子さんは人気のあるプロボウラーで、私の年代では誰でも知っていた方でしょう。日本中にボウリング場が建設されましたが、ボウリングの人気もなくなり、東京ボウリングセンターもいつの間にか閉館となり、35年間外苑で営業した後、吉祥寺に移転し、現在は閉鎖されてなくなりました。

更に、北青山2丁目付近まで行くと、外苑の見事な銀杏並木があります。片側2本計4本の銀杏の大木が150メートルぐらいの並木道を作り、奥に歴史ある絵画館が見えます。紅葉の季節は見事な光景で、黄金に輝いた銀杏並木は何とも美しいもので、東京の名所になっています。神宮外苑も再開発が問題となっています。これも経済優先の考えでしょう。残念なことです。この銀杏並木にも影響が出る懸念があり、私も心配しております。南青山2丁目には、右側奥に広大な青山墓地があり、静かなところなので、猛暑の夏などは休息にもよいところだと思います。吉田茂、後藤新平、大久保利通、尾崎紅葉、中村吉右衛門、斉藤茂吉などの有名人のお墓もあり、散策にも適しています。また、桜の名所でもありますので、この季節に訪れるのも良いのではないのでしょうか。このように青山通りは東京オリンピックの1964年を境に大変貌し、現在のおしゃれな街となりました。しかし、青山通りの一番の特徴は都心にありながら自然が豊かなことです。これは大事にしなければなりませんね。渋谷・青山通り境界は、私の大学時代の思い出での場所でした。やはり、大学時代も高度経済成長時代であり、今と違って将来のことは何も心配することがない、楽しい良き時代だったなと思っています。

この後に、「大阪万博1970について」を予定しておりましたが、スペースの

関係で今回は割愛させていただきます。また、別の機会がありましたら取り上げます。  
(次回は10月初めを予定しております)

追記：今（7月18日）ラジオを聞きながら「第35回教養講座」の原稿を書き始めた時に、前回取り上げたアメリカ人歌手のコニー・フランシスさんが亡くなりましたとの訃報（現地時間7月16日死去）を聞きました。コニー・フランシスさんは1937年ニュージャージー州ニューアーク市生まれで87才でした。